

開票事務改善策は

ニュー市政みんなのクラブ 中込 淳之介



問：23年11月13日に執行された市長選挙、市議会議員選挙において票が混入する重大な開票作業ミスが発生しました。

また、その後の選挙管理委員会の対応には、強い憤りと残念な思いを抱いています。開票作業のミスが何度でも発生するということは、システム全体に改善すべき要素が山積していると考えます。一番大切なことは、改善を図り、再発防止につなげることです。再発防止の改善策を伺います。

併せて、昨今、各地方自治体において投票率が低下している傾向にあります。本市の投票率向上に向けての取り組みと啓発活動について具体的な対策を伺います。

答（市長）：今回の混入票問題は、投票の有効無効の判断基準の確立と合わせて、市選挙管理委員会が改善を図るものと考えています。

答（選挙管理委員会事務局長）：混入票防止の改善



徹底した再発防止策を

高齢者の安全・安心の確保に向け

公明党 日吉 弘子



問：世界で例がないほどのスピードで日本の少子高齢化が進行しています。本市も例外でなく、高齢化の進行とともに高齢者を取り

巻く環境も厳しくなると推察できます。高齢者の方たちが明るく、元気に住み慣れた地域で、安全で安心して住み続けられるかが喫緊

の課題と考えます。本市では、既に高齢者の各種見守り事業を実施していますが、千葉県市原市では名刺サイ

ズのカードに住所、名前、持病、服用薬などの個人情報記載した「高齢者あんしんカード」を配布しています。カードを携帯することと、外出先で万一倒れた時に周囲の人に本人の情報を伝達でき有効と考えます

内部被ばくを減らすために

市民・ネットの会 奥村 正憲



問：市で実施している給食の放射性物質濃度測定の結果、牛乳からセシウム137が8回、セシウム134が4回検出されましたが、不検出の牛乳を提供するべきと考えます。私立の保育園と幼稚園給食も公立と同様に市が検査の要望がないか投げかけ、測定すべきと考えますが併せて見解を伺います。

また、チェルノブイリ原発事故被災地で医療支援活動をした菅谷昭氏が市長を務める長野県松本市のよう

に広報で内部被ばくに関する

国民健康保険税 値上げ中止を

日本共産党 松本 正幸



問：市は、高齢化などに伴う保険給付の増加と景気低迷の影響による収納率低下を理由に国民健康保険税が負担増となる条例改正を提案しています。今回の改正は、所得200万円以下の国

保加入世帯が増加している中、支払いたくても支払えない状況を加速するだけです。一般会計から国保会計への繰り入れで条例改正を回避できると考えますが、見解を伺います。

答（市長）：国民健康保険の運営は、高齢社会の進行による医療費の増加、低所得者層の増大、税負担能力の低下などにより厳しい状況です。今回の改正は、健全運営のために総体的に勘案した結果、見直しが必要と判断したものです。

答（保健福祉部次長）：法定外の一般会計繰入金は国保加入者以外の皆さまにも理解いただくことが必要

災害時の燃料確保対策推進を

海友会 市川 敏彦



問：東日本大震災が原因で、被災地から遠隔地の本市においてもガソリンなどの燃料が不足し市民生活に影響がありました。市役所や消防本部は、救助活動をはじめとするさまざまな活動のために燃料確保は欠かせません。特に避難所運営には、非常用発電機を動かす燃料が必要になります。

安定的な燃料供給を図るうえからも、市が給油施設を整備し、燃料の確保対策を推進するべきと考えますが、見解を伺います。

答（市長）：東日本大震災では、ご承知のように石油精製施設や輸送用燃料施設に被害があり、ガソリン

設に被害があり、ガソリン

高齢者の外出支援 向上のために

公明党 福地 茂



問：市では、市内の交通不便地域の交通対策として鉄道沿線以外で、自動車を所有しない高齢者の移動手段はバスになるのが現状で

そこで、高齢者外出支援

のさらなる向上のために民間バス会社が発行するバス購入に対する助成、あるいは、運休日の日曜日にぬくもり号を運行する考えがあるか伺います。

答（保健福祉部次長）：議員ご提案のバス購入については、バス会社が複数あることから特定のバス会社だけのバスを助成することは考えていません。

また、ぬくもり号を利用

ロマンスカー 海老名駅停車の実現は

海友会 飯田 英榮



問：海老名駅に小田急ロマンスカーを停車させる署名活動を市長自ら先頭に立ち始められて3年がたちます。署名活動は、各種団体にも呼びかけるなど積極的

に展開され、最終的に23万3990名分の署名が集まりました。結果、小田急側の反応は好感感なものを受け止めていましたが、いまだに海老名駅に停車することが公表されません。これまでの交渉経過と今後の見通しについて伺います。

答（市長）：21年5月に海老名発ロマンスカー実現市民会議を中心に事業開始し、署名運動、啓発活動などを展開してきました。署名は、市民だけでなく近隣市町の首長や住民からも多数集まり、小田急電鉄からは「海老名市の熱意は感じ



運行の多様化が期待されるぬくもり号



まちづくりとともに停車の実現化を